２組３班

昔話でみる日中の文化的思想 ～近いようで遠い日本と中国～

臼本 茜　　佐藤 叶子　　西中 麗奈　　藤原 七海　　逸見 早織　　山本 美樹

要旨

日本と中国，それぞれに伝わる説話には比較的似た内容のものが多いことを知った。そのような物語を数多く収集した後に，ある点において顕著な違いが表れたものを厳選，比較した。その結果，物語のある点において日本と中国で相違があったのは文化的・地理的な理由によるものであると分かった。

キーワード：日本，中国，説話，文化，地理

1　序論

本校二年生は桐原書店編集部 編「新演習 漢文 アチーブ２ 改新版」という漢文のワークを週末に課題として取り組んでいる。その中に，日本の「天の羽衣伝説」に似た中国の物語が出題されていた。問題のリード文に「日本のおとぎ話で，類似した話が漢文にも見つかることがある」というように書いてあり，どのような似た物語があるのか，またどのように違うのかを調査し，さらにそれらが生じた背景を考察した。

2　文献調査

インターネットを使った予備調査の後，文献を調べ実際に読んでいった結果，表１のような説話に厳選した。

表１　調査した説話の日本版中国版の題名と共通したあらすじ

番号	日本語版（出典 ⇔中国版（出典	共通したあらすじ
①	天の羽衣(1 ⇔姑穫鳥(2	ある男が水浴びをしていた人外の女に惚れその羽衣を隠し無理やり自分の妻とする。しかし女は自分で羽衣を見つけ，男の元を離れる。
②	狐のお産(3 ⇔虎のお産(2	なんらかの動物が人間の医者にお産を手伝ってもらい，後に動物が人間にお礼をする。
③	オシラサマ(4 ⇔女化蚕(2	父が忙しく寂しくしている娘が馬と交流する。そのことに怒った父が馬を殺して皮を剥ぐ。すると馬の皮は娘に巻きついて娘ごと空に消えていってしまう。
④	花咲か爺(3 ⇔狗耕田(3	ある人間の飼い犬が人間に利益をもたらすが，その人間と対立する人物に殺され，それでもなお人間に利益をもたらす。
⑤	浦島太郎(1 ⇔洞庭湖の竜女(2	主人公が海で助けたモノに竜宮城へ招待され，そこで暮らすが地上が恋しくなり，帰る旨を告げるとある箱を渡される。その箱を持って帰ると，地上では長い年月が過ぎていた。

この表１より，日中には類似する物語が複数個存在する。

次にこれらの説話の相違点を比較し，その相違が生じた背景を様々な角度から表 2 のように考察した。

２組３班

表２　説話の相違点と相違が生じた背景

番号	相違点 日本版⇔中国版	相違が生じた背景
①	天女⇔鳥	中国版では鳥という現実に生息している動物だが，日本版では天女と曖昧にぼかした存在で表現している。それは曖昧さを美徳とする日本人の性質からである，と考えられる。
②	（恩返しするのが）狐⇔虎	古来日本に虎は生息しておらず，日本ではイメージしにくかった。虎と同様に，人間に恩を返しそうにない動物として日本では狐がイメージしやすかったと考えられる。
③	（馬と娘が）相思相愛⇔（馬が娘に）偏愛	日本において馬は運搬などを手伝う身近な動物であったため，悪いイメージはなかったが，中国では儒教において馬などの異類を排除する傾向があったため，馬の偏愛型であったと考えられる。
④	（登場人物が）老人⇔兄弟	紀元前に中国本土に伝わってきたのが兄弟版であったが，日本では隣同士の老人が登場する話が一般的であったため，教訓的な意味がうまく伝わるようにとより親しみやすい形に変化したと考えられる。
⑤	（主人公が）老いて鶴になる⇔死ぬ	日本版で主人公が最後どうなるのかをぼかしているのは，日本人と中国人の死生観の違いからであった。中国人は「死」に恐怖していたため約束を破った場合の罰として「死ぬ」という結末にしたが，日本人は「死」を恐れなかったため「死なない」という結末にした。

この表により，日本版と中国版の説話はいくつかの相違点があり，その土地にあった形で定着していったと考えられる。

3　結論

例えば「オシラサマ」と「女化蚕」の比較についてみてみると，日本には古代よりアニミズムという，全ての自然界に存在するものには精霊が宿っているという考え方があったので，「オシラサマ」において馬は娘に愛されるという恵まれた待遇を受けていた。その一方で中国では当時普及していた儒教において馬などの人間以外の異類を排除する思想があったため「女化蚕」において馬は娘に愛されず，恵まれない待遇を受けていた。

このことから日本と中国のその当時の文化が昔話に大きく影響していることが考えられる。よって昔話は全世界で統一されているのではなくその土地，その土地の文化にあった親しみやすい形態へと変化し，定着していったと結論付けることが出来る。

また，「虎のお産」に見られるような地理的背景における関連性についても詳しく検証することを今後の課題としたい。

＊謝辞

本研究にあたっては，熱心にご指導いただいた岡山県立倉敷天城高等学校国語科二年の先生方に深く感謝いたします。

【参考文献】

・稲田浩二，稲田和子：日本昔話百選，三省堂　(2 佐野誠子：中国古典小説選 2，明治書院

・稲田浩二，稲田和子：日本昔話ハンドブック（4 柳田國男：遠野物語，集英社